



2016年 3月期 決算説明会

2016年5月13日

石油資源開発株式会社

注意事項

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しを示したものです。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。

Copyright: 本資料に含まれるすべての内容に関する著作権は、当社が有しています。
事前の承諾なく、これらの内容を複製もしくは転載することはお控えください。

注: 本資料において **1H,2H** はそれぞれ上期、下期を、
(a) は実績数値を、**(e)** は予想数値を示しています。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

石油資源開発株式会社 広報IR部 IRグループ 電話 **03-6268-7111**

説明会の内容

I. 事業の概況

代表取締役社長 渡辺 修

II. 2016年3月期 決算の概要

執行役員 山下 通郎

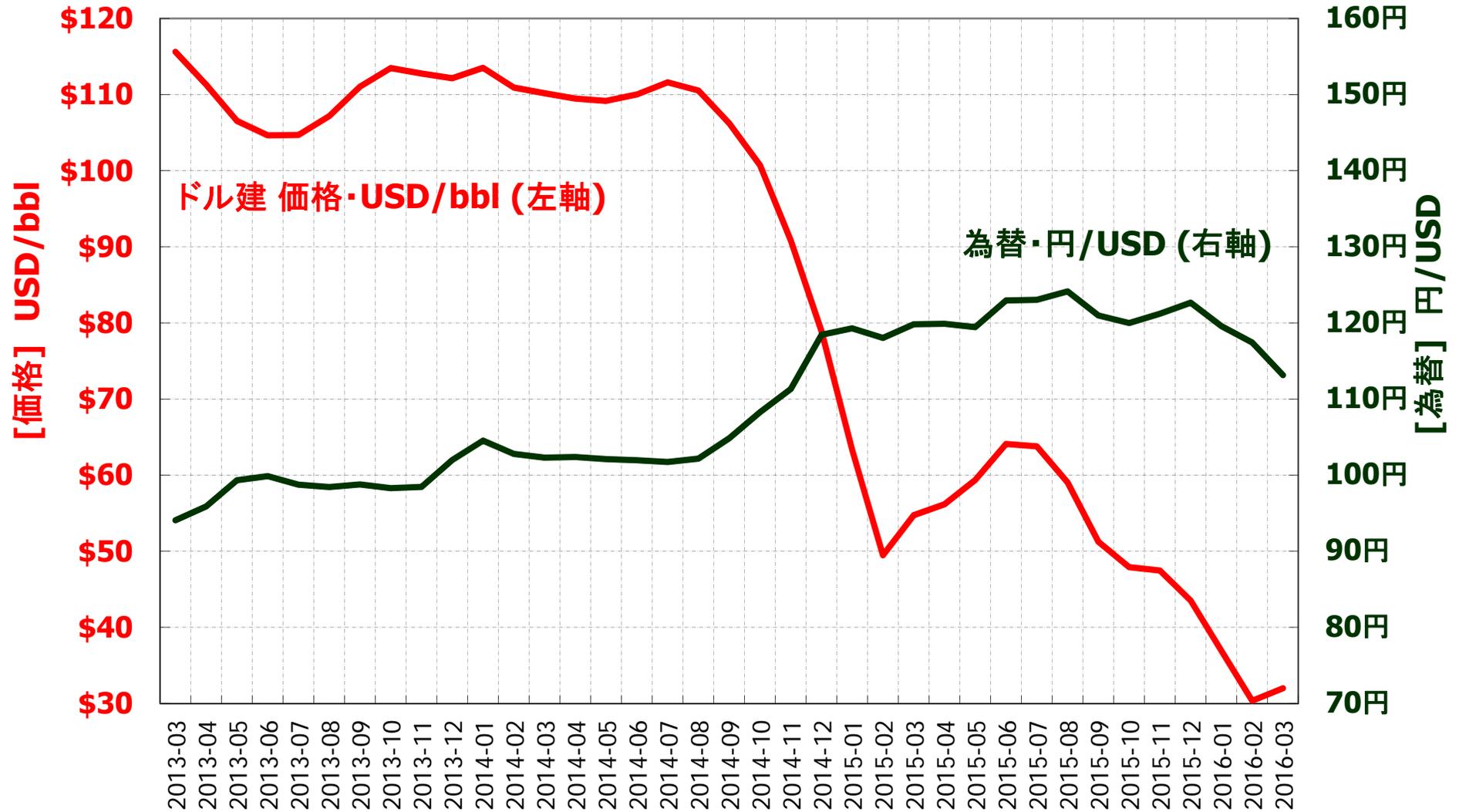
III. 2017年3月期 通期業績予想の概要

執行役員 山下 通郎

I. 事業の概況

代表取締役社長
渡辺 修

原油価格と為替の動き



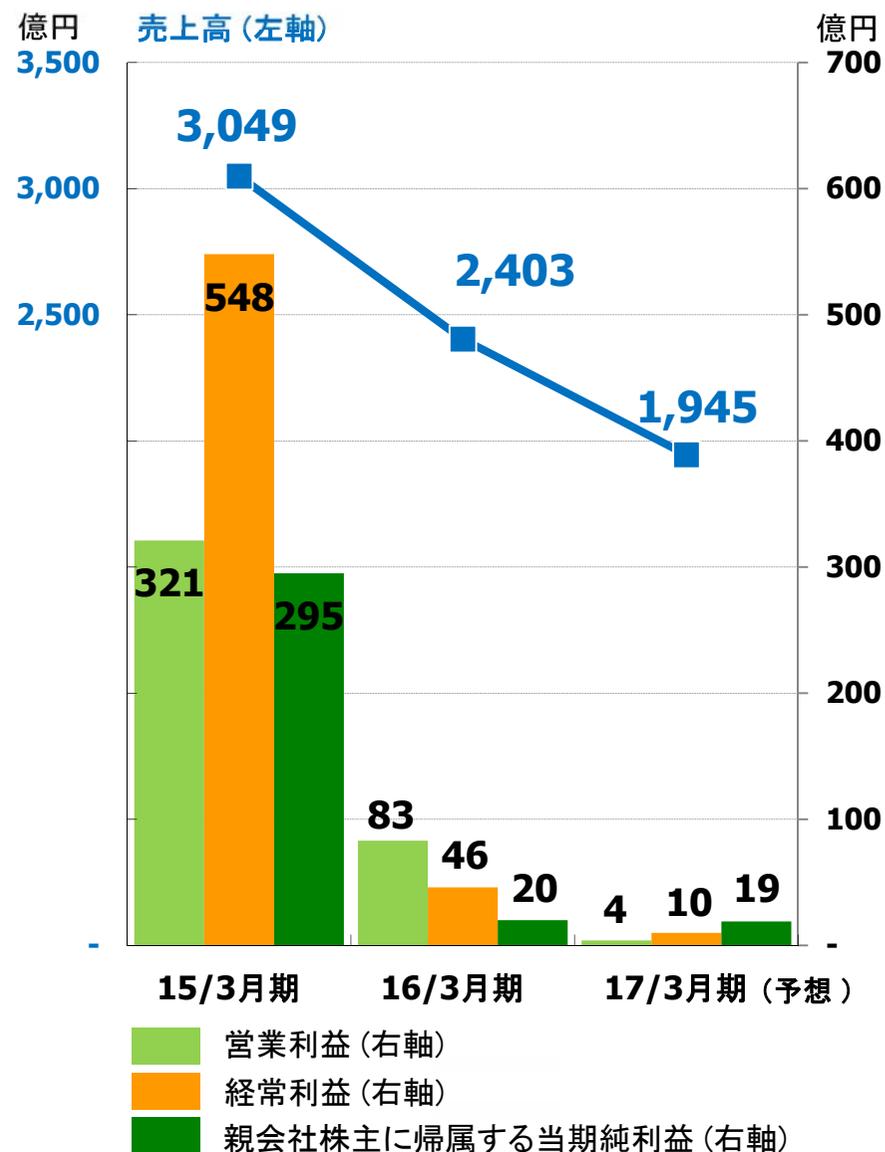
16/3月期決算、17/3月期予想【ハイライト】

■ 16/3月期 実績（15/3月期 実績比）

[億円]	15/3月期 実績 (a)	16/3月期 実績 (a)	比較増減	
売上高	3,049	2,403	▲646	▲21%
営業利益	321	83	▲238	▲74%
経常利益	548	46	▲501	▲91%
親会社株主に帰属する 当期純利益	295	20	▲274	▲92%
油価 (USD/bbl)	96.48	51.48	▲45.00	▲46%
為替 (円/USD)	106.23	121.06	+14.83	+14%

■ 17/3月期 予想（16/3月期 実績比）

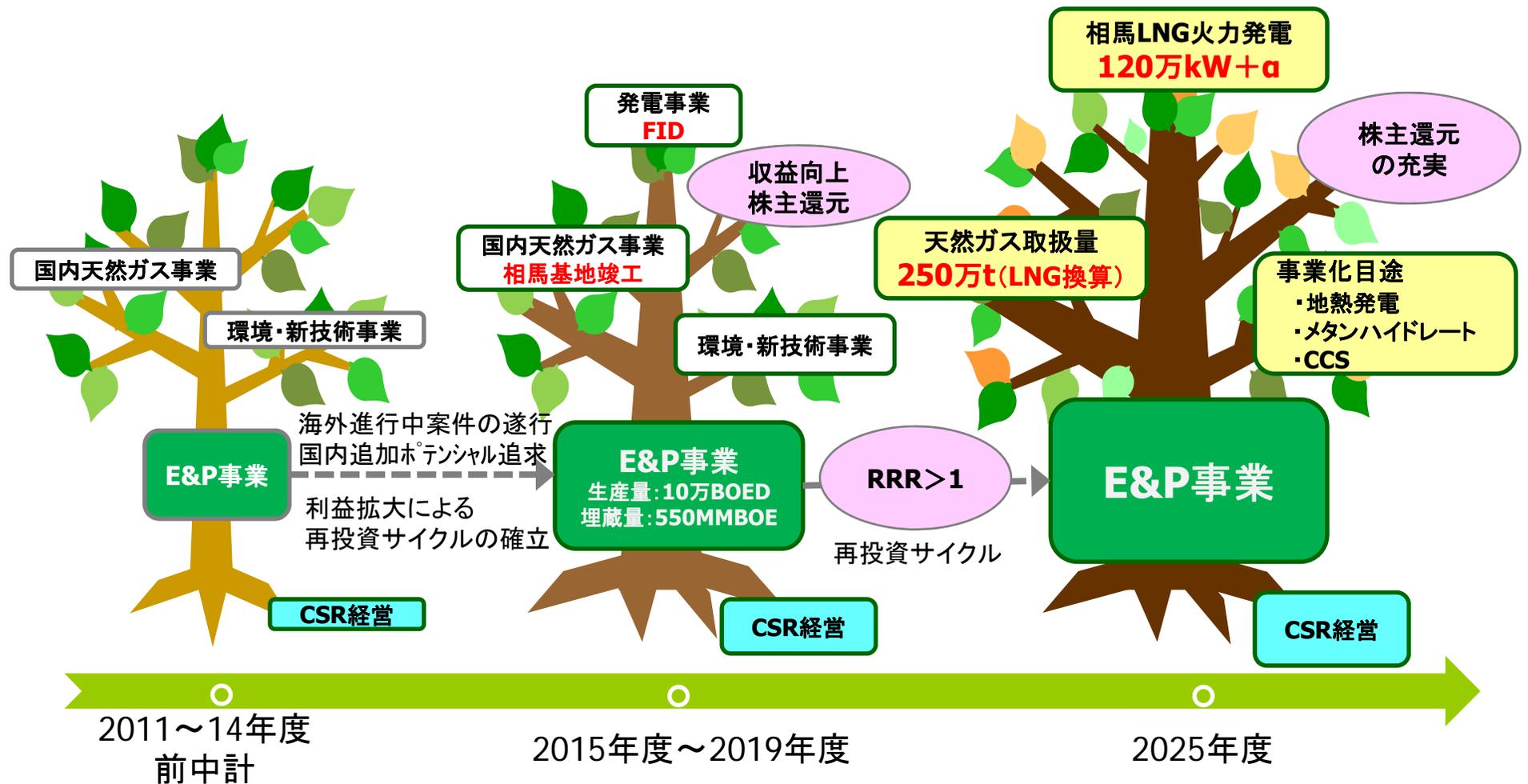
[億円]	16/3月期 実績 (a)	17/3月期 予想 (e)	比較増減	
売上高	2,403	1,945	▲457	▲19%
営業利益	83	4	▲79	▲95%
経常利益	46	10	▲36	▲78%
親会社株主に帰属する 当期純利益	20	19	▲1	▲5%
油価 (USD/bbl)	51.48	45.00	▲6.48	▲12%
為替 (円/USD)	121.06	115.00	▲6.06	▲5%



＜中計フォローアップ＞ 長期経営ビジョンと中期事業計画(2015～)

「石油・天然ガスE&P事業を軸とする総合エネルギー企業への転換」

➤ 樹木に譬えれば、E&P事業を根・幹とし、均整のとれた樹形(事業構成)に成長。



<中計フォローアップ>

事業環境認識 ①外部環境全般

■ 中計策定時の認識(要旨)

- 大きく、以下の世界情勢に注目。
 - ① 国際原油価格の変動リスクが顕在化
 - ② 地政学リスクは引き続き存在
 - ③ 国内天然ガス事業の競争激化
 - ④ 地球環境対策問題にむけた国際的な動き
- 化石燃料使用を極端に抑制する国際合意形成の可能性は低く、中・長期的には新興国を中心に石油・天然ガス需要は大幅に増加、石油・天然ガスは、国際的に一次エネルギーの主要な役割を長期的に担い続ける。

中計策定後の外部環境変化

- 低い原油・ガス価格環境 ⇒ 供給力の過剰状態が継続する可能性
- COP21・パリ協定の採択 ⇒ 温暖化ガス排出規制の強化が加速する可能性

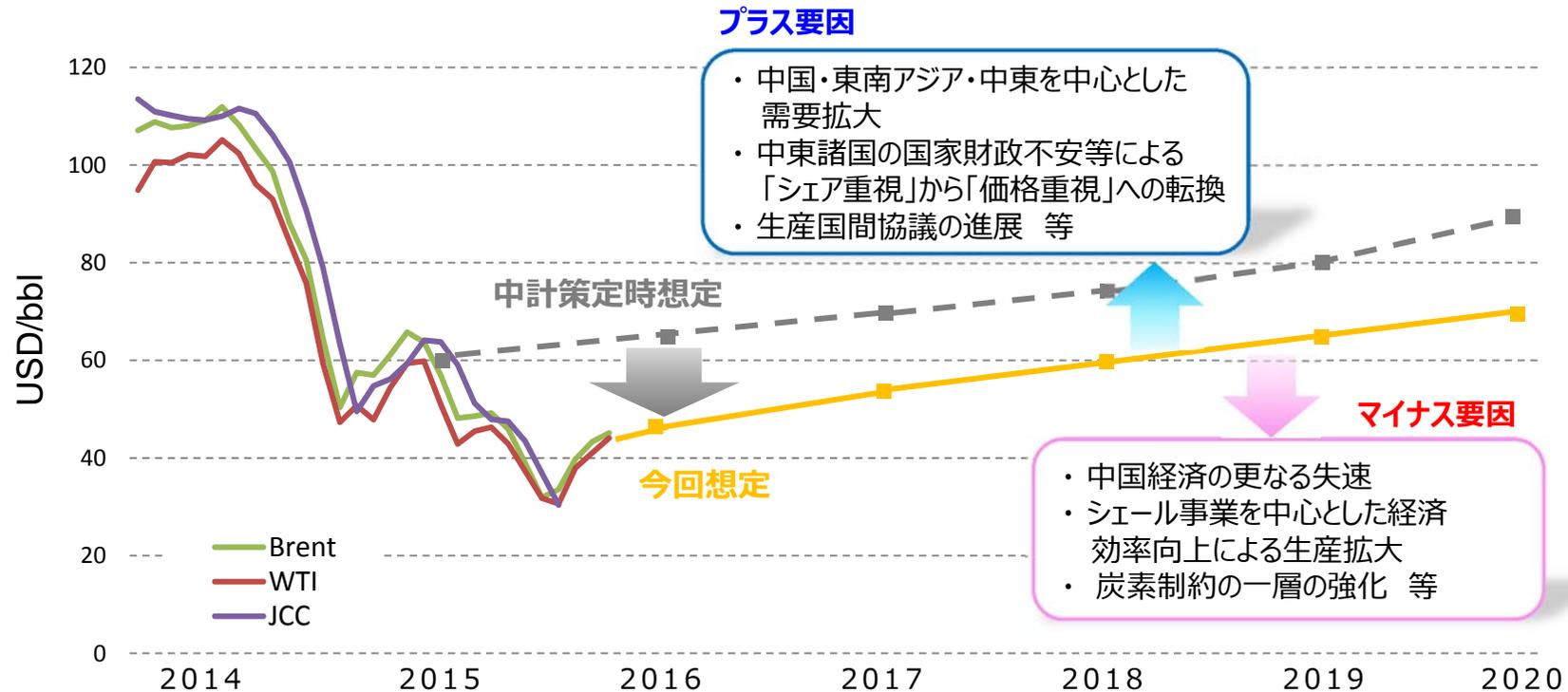
■ 現時点の当社認識

- E&P業界の投資抑制の動き、それに伴う将来の供給不足への懸念や、新興国における中・長期的な需要増加見通し等を踏まえれば、今後の動向を注視しつつも、現時点では、当社を取り巻く外部環境の基本認識は変わらず、長期ビジョンとその実現に向けた新中計の基本戦略を堅持する。

＜中計フォローアップ＞

事業環境認識 ②油価・為替想定

- 中計策定時からの油価低下の状況を踏まえた原油・為替想定の見直し
 - 油価については、より緩やかな市況回復を想定



ベースケース (括弧内は昨年度想定)

		2016	2017	2018	2019	2020
油価	USD/bbl	45 (65)	55 (70)	60 (75)	65 (80)	70 (90)
為替		115円/USD (120) ・ 80円/CAD (105)				

＜中計フォローアップ＞

中計の進捗 ①進行中主要プロジェクトの概況

■ E&P事業

＜最重点課題＞（海外）

進行中大型プロジェクトの着実な遂行

カナダシェールガス・LNGプロジェクト

- ✓ (上流) 低ガス価を踏まえ、経済性を考慮した上流開発の継続
- ✓ (中流) 連邦政府による環境影響評価承認後の最終投資決定(FID)に向け、経済性を追求し判断

カナダオイルサンド

- ✓ 2017年前半の生産開始に向け、ハンギングストーン拡張開発の着実な実施

イラク・ガラフ油田開発

- ✓ 日量10万バレルの安定生産継続中
- ✓ 日量23万バレルへの段階開発協議中

インドネシア・カンゲアンプロジェクト

- ✓ TSB Phase-2の2019年2Qガス生産開始に向け、開発準備中

■ 国内天然ガス等供給事業

＜最重点課題＞

天然ガス一環供給体制の構築
「供給」「調達」両面における多様化

相馬LNG基地建設

- ✓ 2018年3月の運開に向け、建設作業中
- ✓ 運開後の操業組織体制整備に着手

相馬・火力発電事業

- ✓ 2020年1月の運開に向け、検討作業中

■ 環境・新技術事業

＜最重点課題＞

大型プロジェクト取組み加速(CCS/MH)

CCS

- ✓ 2016年4月より圧入実証開始

メタンハイドレート

- ✓ 2017年の第二回海洋産出試験準備中

地熱発電

- ✓ 武佐岳で評価3号井掘削予定(2016年度)

<中計フォローアップ>

中計の進捗 ②低油価環境における対応

- 低油・ガス価格継続時のリスク分析を行い、徹底的なコスト削減等の対策を実施中。

カナダオイルサンド

生産一時休止中

Hangingsone 3.75セクション

- ✓ 操業の一時休止(本年5月)による、プロジェクト会社の収支改善と油価回復までの埋蔵量温存

Hangingsone 拡張開発

拡張開発中

- ✓ 開発作業を継続中。
- ✓ 2017年前半の生産開始を目指す

カナダシェールガス・LNG

中流FID準備中

上流ガス開発

- ✓ 現地ガス価動向を踏まえた坑井掘削・生産計画の大幅抑制による、プロジェクト会社の収支改善

中流(液化設備建設等)開発

- ✓ 環境影響評価継続中(承認遅延)
- ✓ その間に徹底的なコスト見直しを実施予定

イラク

生産・販売中

拡張開発準備中

ガラフ油田

- ✓ プロジェクト会社の資金収支が自己回転可能となる追加投資計画の策定、配当抑制

カンゲアン

生産・販売中

試掘準備中

TSBガス田 Phase2

- ✓ 油価低迷の影響は軽微

サウス・サウビ構造試掘

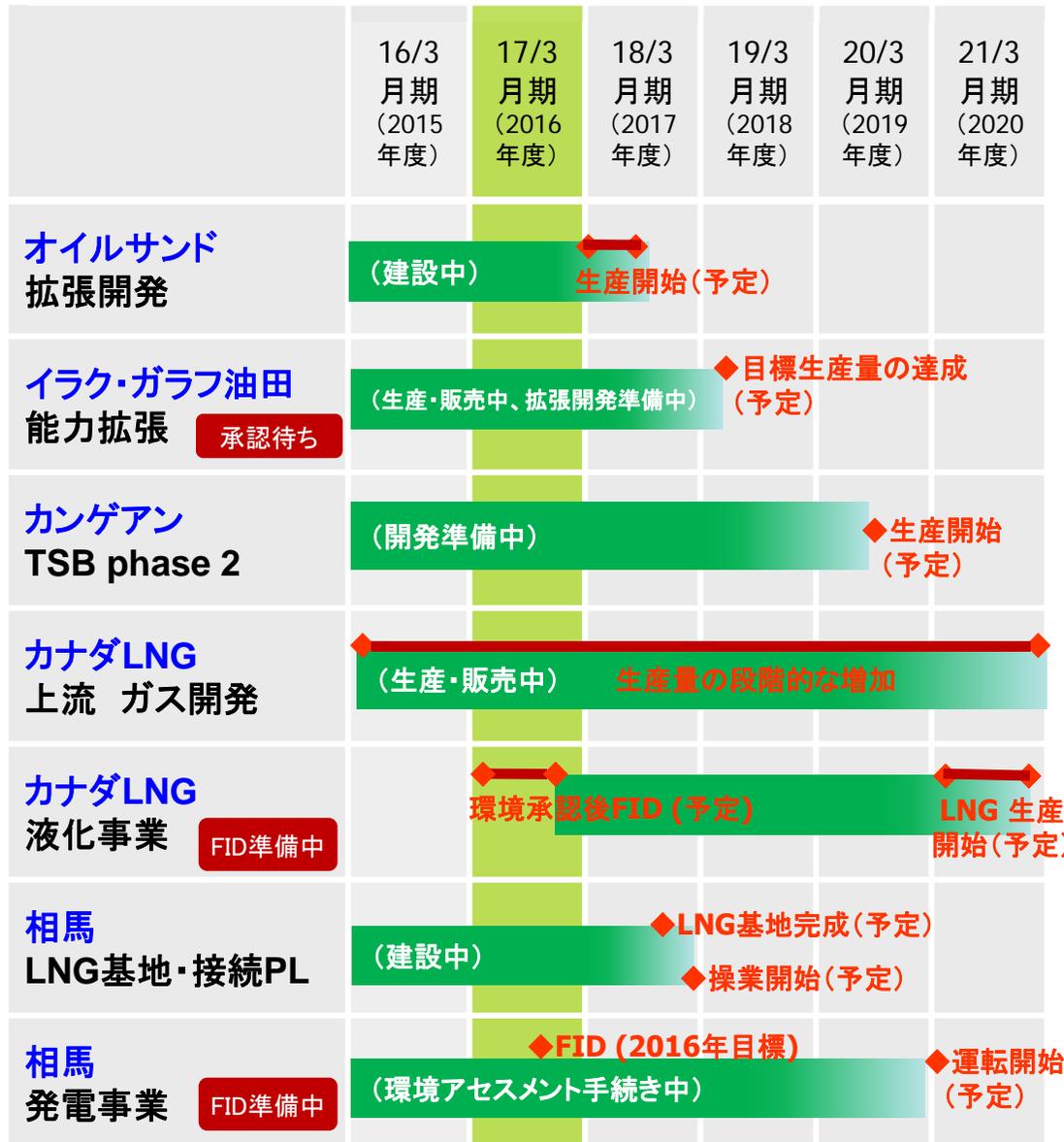
- ✓ 各種サービス及び資機材市況の低下を活かした掘削費の削減

その他

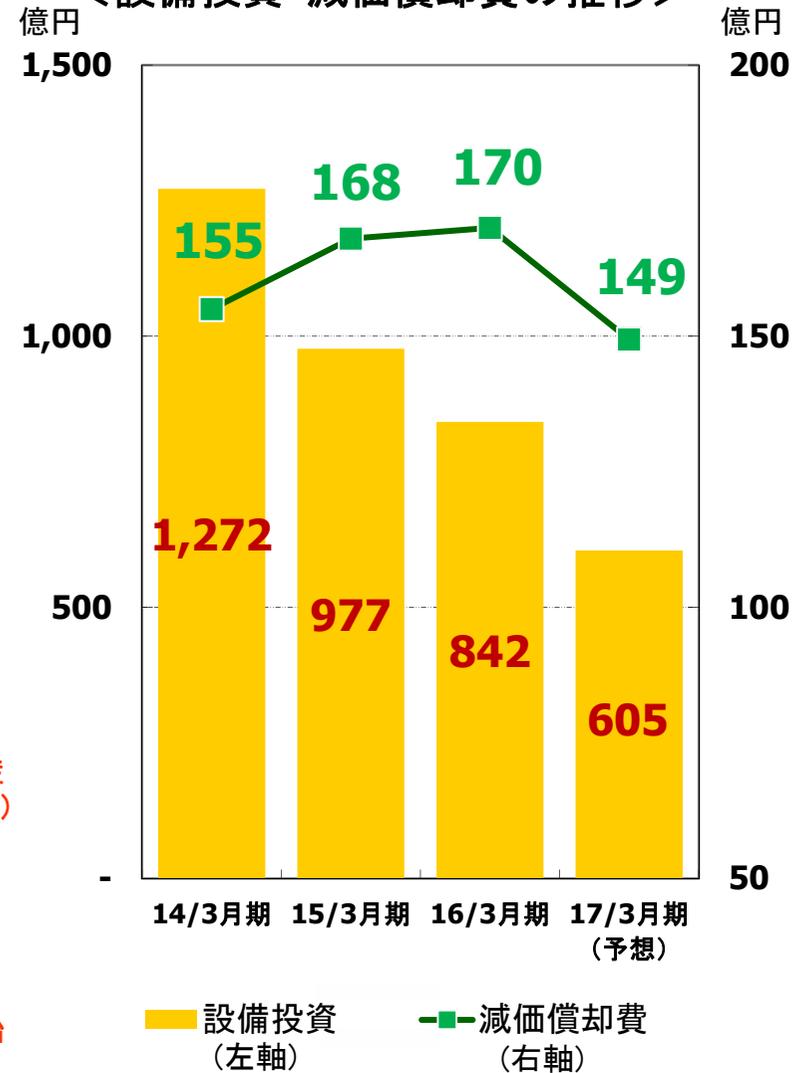
- ✓ 探鉱費及び販管費等を中心としたコスト削減(対16/3月期比で17/3月期は探鉱費と販管費で約22%減少。P35参照)
- ✓ 設備投資額抑制(対16/3月期比で17/3月期は約28%減。次ページ参照)
- ✓ 新規投資の凍結
- ✓ 非コア資産の売却検討(インドネシア アチェBlock A鉱区は譲渡合意済)

＜中計フォローアップ＞

中計の進捗 ③主要プロジェクトのタイムライン



＜設備投資・減価償却費の推移＞



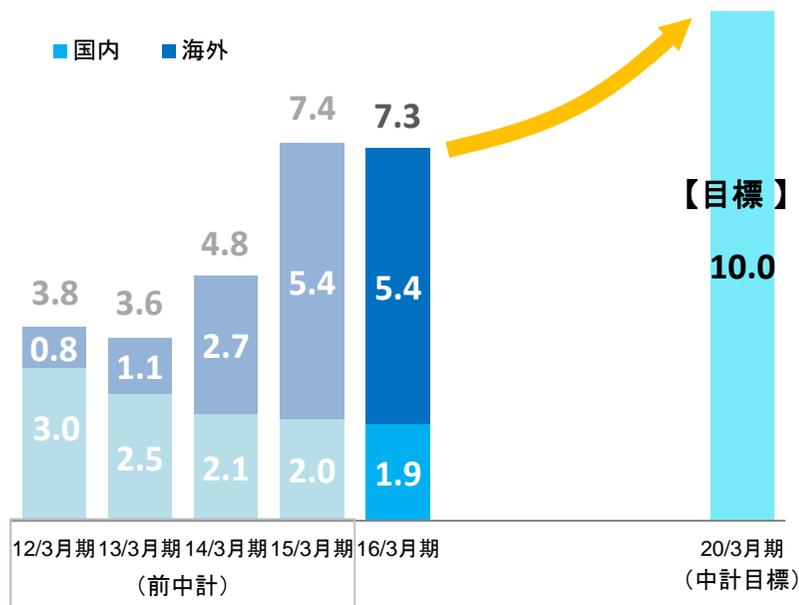
<中計フォローアップ>

中計の進捗 ④生産量・埋蔵量の推移

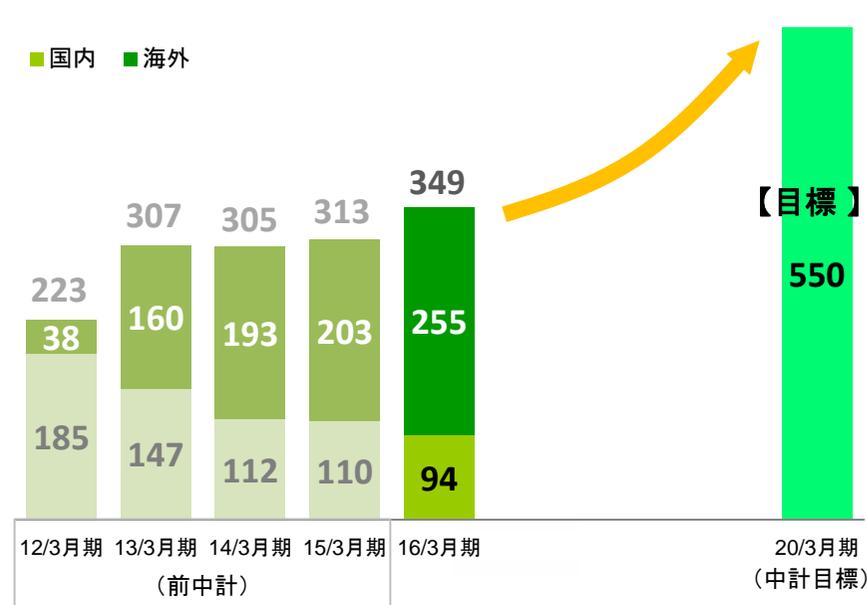
■ 生産量・埋蔵量の2016年3月期実績はそれぞれ 7.3万BOED、349MMBOE

- 生産量は、カナダシェールガス生産量が増加する一方、国内の減退とイラク・ガラフプロジェクトのコスト回収進捗による経済的取分の減少等により、全体では約1%減少。
- 埋蔵量は、国内で生産による減少と油価の低下等に伴う評価減が生じる一方、カナダシェールガス開発の進捗及びカナダオイルサンドHEの評価見直し等により補填され、全体では約12%増加。
- 今後、更なるカナダシェールガス開発やガラフ油田開発等の進捗により中計目標達成を目指す。

<生産量> (単位:万BOED)



<埋蔵量> (単位:MMBOE)



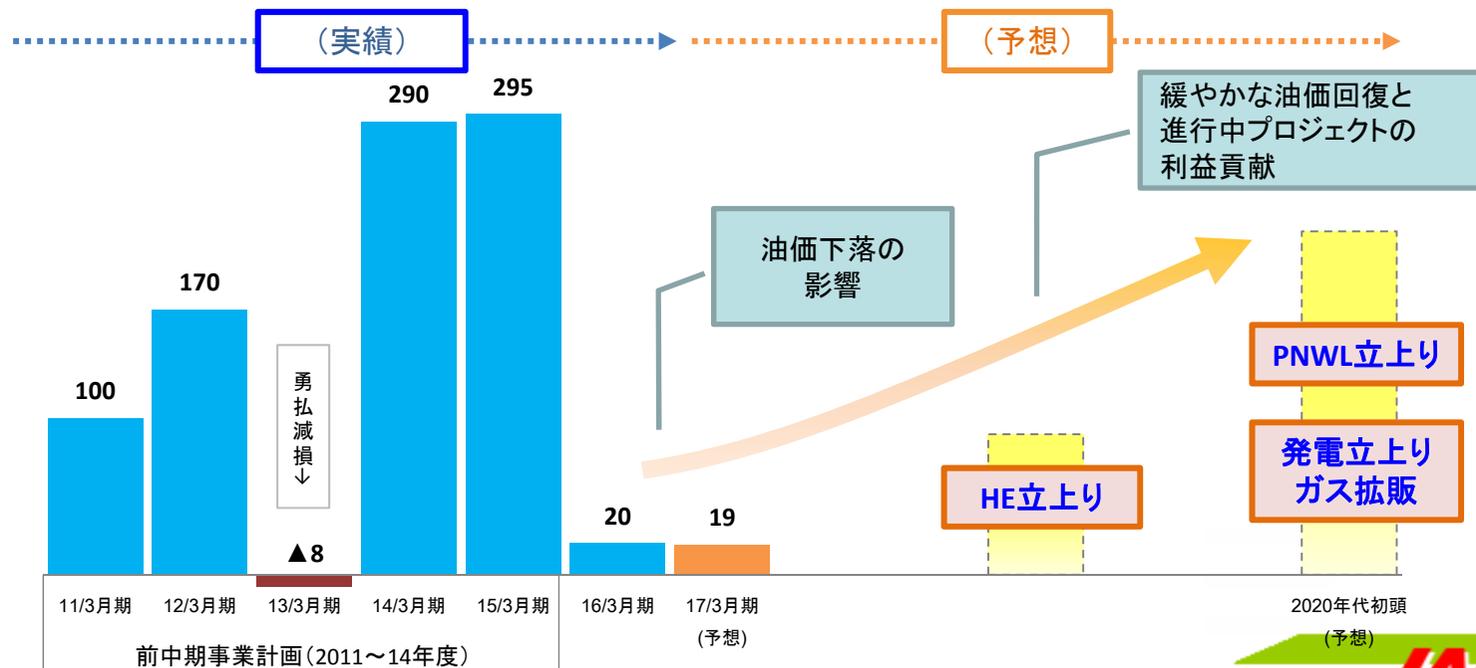
※生産量、埋蔵量は、当社グループの経済的取分相当量

＜中計フォローアップ＞

収益の見通しと株主還元

- 連結損益は、大幅な油価下落により16/3月期は大きく減少。17/3月期も低水準に留まる見通し。
- 当面の低油価環境においても安定配当を維持したうえで、進行中大型プロジェクトの進捗管理及びコスト削減策の徹底により、油価回復と相俟った将来収益の確保を図る。

連結当期純利益の推移
(億円)



<中計フォローアップ> CSR経営 ~“SHINE”の推進

■ CSR重点課題「SHINE」

- S** エネルギー安定供給 (Stable & Sustainable Energy Supply)
- H** 企業文化としてのHSE (HSE as Our Culture)
- I** 誠実性とガバナンス (Integrity & Governance)
- N** 社会との良好な関係構築 (Being a Good Neighbor)
- E** 選ばれる魅力ある職場 (The Employer of Choice)

すべてのステークホルダーからの期待・要請に応え、
信頼されるグローバル企業として成長するための
取組みを推進

目標 女性管理職比率

2014年	2015年	2020年
3.4%	4.5%	⇒	10.0%超 (目標)



TOPIC 平成27年度「なでしこ銘柄」に選定

経済産業省と東京証券取引所が共同で女性活躍推進に優れた上場企業を選定し、発表している「なでしこ銘柄」に選定されました。



<参考資料>

E&P事業① 国内探鉱 前期実績と今期計画

● 16/3月期(2015年度) 掘削作業の実績

名称	掘削深度	1Q			2Q			3Q			4Q			結果
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
南柏崎SK-1D (試掘井)	2,900m													廃坑

■ 16/3月期(2015年度) 物理探鉱作業の実績

うおぬまMT 3D	新潟県 長岡市・小千谷市 (82点) 9~11月作業実施 (電磁探査:地下の岩石の電気比抵抗を調査)
-----------	--

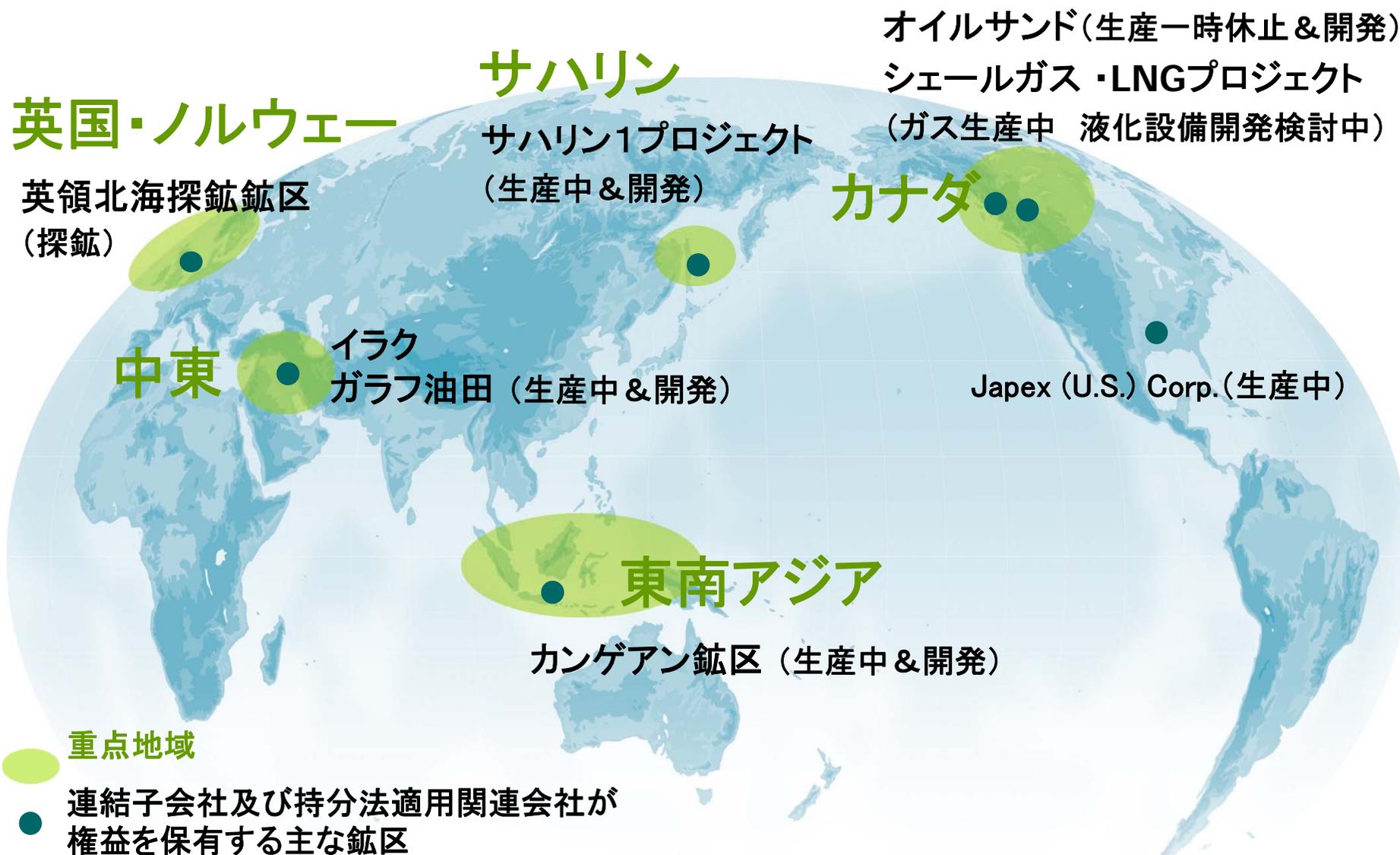
● 17/3月期(2016年度) 掘削作業/物理探鉱作業計画

名称	掘削深度	1Q			2Q			3Q			4Q		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
※17/3月期(2016年度) 国内探鉱作業計画は該当無し													



<参考資料>

E&P事業② 海外重点地域での取組み



<参考資料>

E&P事業③ カナダシェールガス・LNGプロジェクト

	シェールガス開発・ 生産プロジェクト(上流)	LNGプロジェクト (中流)
鉱区/ プラント 候補地	カナダ ブリティッシュ・コ ロンビア州ノース・モント ニー地域	同州プリンス・ルパート レルー島
当社子会社 参加比率	10%権益	10%持分
オペレーター	PETRONAS (子会社含む)	PETRONAS (子会社含む)
現況	シェールガス生産・販売中	LNG設備建設業者選定 作業中



■プロジェクトスケジュール

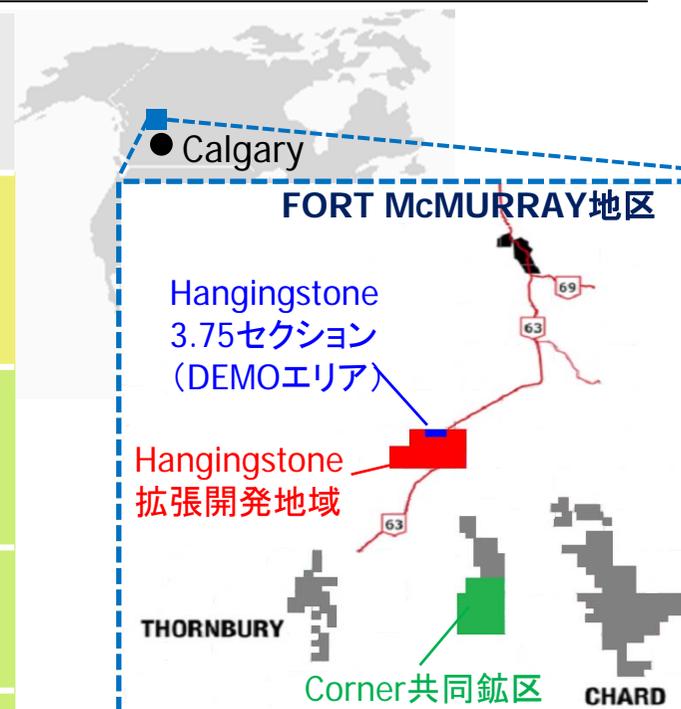
2013年	契約締結、シェールガス生産・販売
2015年6月	条件付最終投資決定(FID)
2015年7月	BC州議会によるプロジェクト開発契約承認
2016年下半期	カナダ連邦政府の環境影響評価承認後、最終投資決定(FID)につき判断
2020年以降	LNG生産開始(1200万トン超/年)予定



<参考資料>

E&P事業④ カナダオイルサンド

プロジェクト 会社	カナダオイルサンド(株) (CANOS) オペレーター : Japan Canada Oil Sands Ltd. (JACOS)	
鉱 区	ハンギングストーン3.75セクション (権益比率) 100% 日量約5千バレル (生産一時休止中)	生産休止 (2016年3月 末累計生産量: 3,507万バレル)
	ハンギングストーン拡張開発地域 (権益比率) 75% 日量2万バレル規模から段階的拡張を予定	開発 作業中
	コーナー共同鉱区 (権益比率) 12%	評価 作業中
	その他ビチューメン鉱区 (コーナー、チャード、ソンベリー等)	検討中



■ハンギングストーン拡張開発スケジュール

2013年	2月 : 開発工事着手(初期土木工事)
2014年	8月 : 初期土木工事完了、現場での施設建設工事開始
2015年	2月 : 水平井掘削作業完了
2017年前半	生産開始予定



<参考資料>

E&P事業⑤ イラク ガラフ油田開発

プロジェクト会社	(株)ジャペックスガラフ	
参加比率	30% (資金負担40%) オペレーター：PETRONAS	
油田名	ガラフ油田	生産中
2013年	累計生産量	2030年



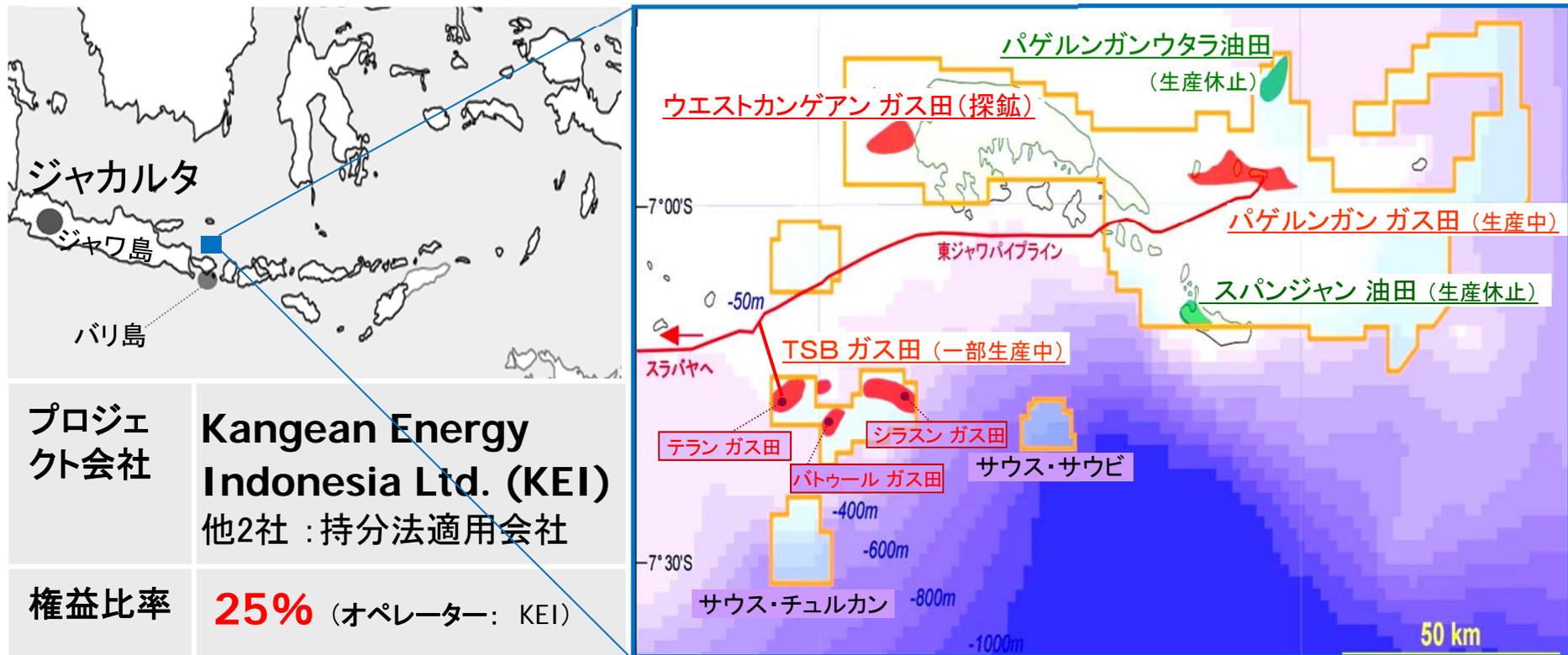
■開発スケジュール

2013年	8/31 ガラフ油田 生産開始 平均生産量：日量約6.4万バレル
2014年～ 2016年	2014年平均生産量：日量約8.4万バレル 2016年4月現在：日量約10万バレル * 段階的に生産量引き上げ
2017年以降	日量 23万バレル に向けて増産予定



<参考資料>

E&P事業⑥ インドネシア カンゲアン鉱区



■ 現在の生産規模は、原油換算で最大日量約5万バレル

□ TSBガス田(Phase1 テラン)：2012年5月末生産開始、
最大生産日量3億立方フィート(原油換算で約5万バレル)

(Phase2 シラスン、バトゥール)：2019年2Q生産開始に向けて開発準備中

□ サウス・サウビ構造：2016年7月の試掘実施に向けて準備中

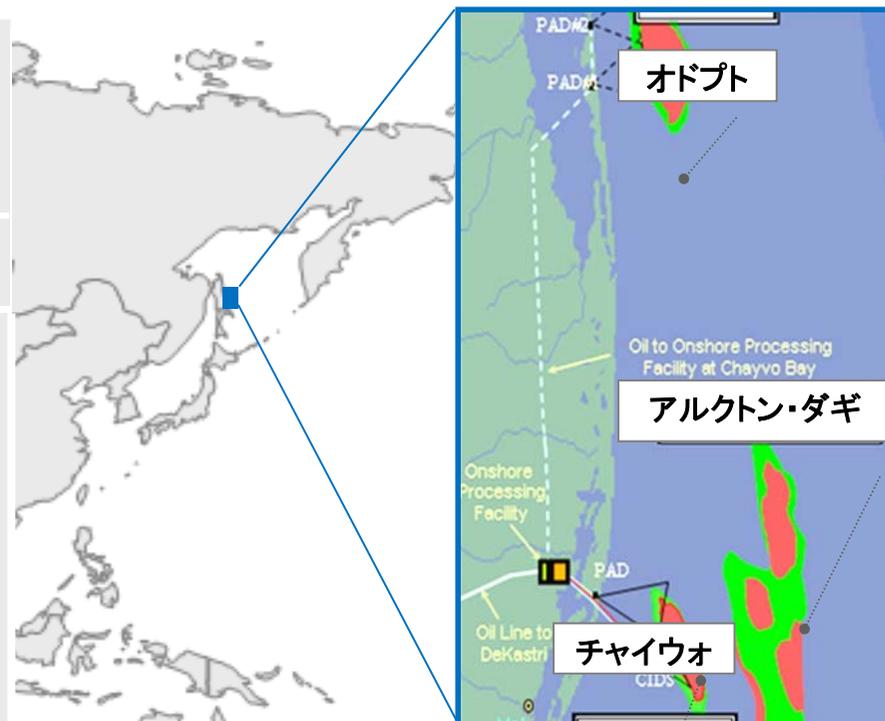
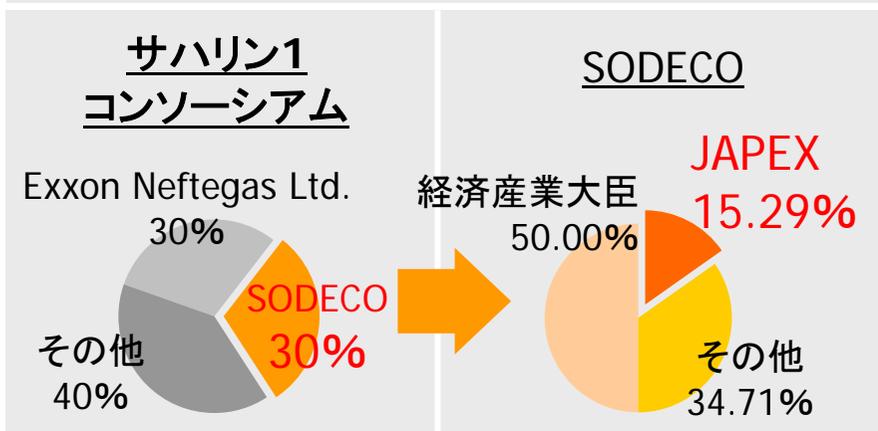


<参考資料>

E&P事業⑦ サハリン1 プロジェクト

プロジェクト会社	サハリン石油ガス開発(株) (SODECO) 持分法適用会社
----------	--------------------------------------

権益比率



鉱区	チャイウオ、オドプト、アルクトン・ダギ	<p>3油田で生産中</p> <p>※ アルクトン・ダギは2015年1月より生産中</p> <p>※ チャイウオは2015年に大偏距掘削で 掘進長 13,500mの世界記録を達成</p> <p>合計原油生産量: 日量約18万バレル</p> <p>※ 生産量は、当社見積もりによる、プロジェクト全体の2016年平均日量</p>
----	---------------------	---



<参考資料>

国内天然ガス等供給事業① 相馬LNG基地の建設

■相馬LNG基地設備概要

建設地	福島県相馬郡新地町 (相馬港4号埠頭地区)
容量	地上式PC型23万kl(約10万t)貯槽×1基
受入設備	LNG外航船:1式(最大21万m ³ 級) LPG内航船:1式(最大2,500m ³ 級)
気化器	送出能力:7.0MPa 150t/h
出荷設備	LNG内航船:最大4,800m ³ 級 LNGローリー:5レーン、30t/h
操業開始時期	2018年3月(予定)



■相馬・岩沼間ガスパイプライン設備概要

起点・終点	起点:相馬LNG基地 終点:岩沼分岐バルブステーション (宮城県岩沼市)
口径	20B(20インチ=外径508mm)
設計圧力	7.0Mpa(メガパスカル)
延長	約39km
操業開始時期	2018年3月(予定)



■相馬LNG基地
LNGタンクおよび埋立地
全景



■相馬・岩沼間ガスPL
阿武隈川 弧状推進工事
パイプ設置

<参考資料>

国内天然ガス等供給事業② 発電事業の検討

■相馬港天然ガス発電所(仮称)計画概要

原動力の種類	ガスタービン及び汽力 (コンバインドサイクル方式)
出力	約120万kW (約60万kW×2基)
現況	福島ガス発電(株)設立 環境アセスメント手続き中



■スケジュール

2014年11月4日	「配慮書」を経済産業大臣に提出
2015年1月5日	「配慮書」への経済産業大臣の意見書交付
2015年4月23日	「福島ガス発電(株)」設立
2015年5月7日	「方法書」を経済産業大臣に提出
2015年10月6日	経済産業大臣より「方法書」の勧告を受領
2016年央	「準備書」を経済産業大臣に提出(予定)
2017年央	環境アセスメント手続き完了、現地工事開始(予定)
2020年	運転開始(予定)

2020年に首都圏へ電力供給
開始することを目指す



<参考資料>

環境新技術事業 地熱発電、MH、CCS、太陽光発電

CCS



苫小牧CCS実証プロジェクト地上設備

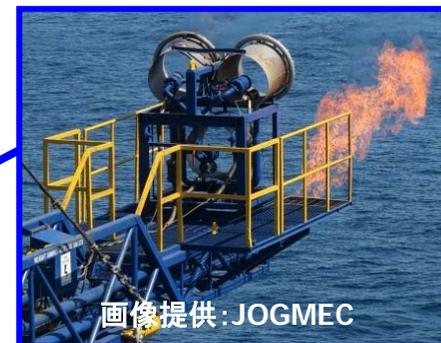
地熱発電事業



太陽光発電事業



メタンハイドレート(MH)



第1回メタンハイドレート海洋産出試験

Ⅱ. 2016年3月期 決算概要

執行役員 山下 通郎

16/3月期 決算概要【ポイント】

[億円]	15/3月期 通期実績 (a)	16/3月期 通期			実績 (a)
		当初予想 5.12公表 (e)	修正予想 11.6公表 (e)	修正予想 2.5公表 (e)	
売上高	3,049	2,711	2,577	2,457	2,403
営業利益	321	91	86	86	83
経常利益	548	140	58	51	46
親会社株主に帰属する 当期純利益	295	117	69	52	20

[油価と為替の前提]

原油CIF価格 (USD/bbl)	96.48	60.00	54.81	51.37	51.48
為替/米ドル (円/USD)	106.23	115.00	120.82	121.05	121.06

◆ 16/3月期 当初予想 (5.12公表) → 修正予想 (11.6公表) → 修正予想(2.5公表)

【一】原油・海外天然ガス販売価格の下落、外貨建借入金に係る為替換算差額の発生、
為替差損益の変動、税金費用の増加 等

◆ 16/3月期 修正予想 (2.5公表) → 再修正(4.27公表)ならびに決算値(5.12短信)

【一】海外原油販売数量の減少、減損損失計上 等

16/3月期 天然ガス 販売状況【前期比】

販売量: 百万M3 売上高: 百万円		15/3月期		16/3月期		比較増減	
		4-9月 2Q累計 (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 2Q累計 (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 2Q累計	4-3月 通期
天然ガス:	販売量	775	1,710	820	1,780	+45	+70
	売上高	37,458	83,974	33,031	68,469	▲4,427	▲15,505

販売量 内訳

国内ガス販売	販売量	578	1,276	579	1,276	+0	▲0
(うち国産天然ガス)	販売量	(382)	(813)	(361)	(769)	(▲21)	(▲44)
海外ガス販売	販売量	196	434	241	504	+45	+70



本資料における「海外ガス」の販売量は、海外連結子会社である Japex(U.S.)Corp.、JAPEX Montney Ltd.の数値を記載。

16/3月期 原油 販売状況【前期比】

販売量: 千KL 売上高: 百万円		15/3月期		16/3月期		比較増減	
		4-9月 2Q累計 (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 2Q累計 (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 2Q累計	4-3月 通期
原油:	販売量	1,107	2,396	1,480	3,233	+372	+837
	売上高	73,500	133,346	57,148	102,918	▲16,352	▲30,428

[権益原油の内訳]

国産原油 (※1)	販売量	190	367	180	340	▲10	▲27
	売上高	13,768	23,857	8,427	13,815	▲5,341	▲10,042
海外原油 (※2)	販売量	273	830	669	1,616	+396	+786
	売上高	18,568	43,466	24,416	48,384	+5,847	+4,918
ビチューメン (※3)	販売量	152	332	143	306	▲9	▲26
	売上高	5,382	12,105	2,927	4,894	▲2,454	▲7,211

[油価と為替の前提]

原油CIF価格	(USD/bbl)	110.06	96.48	59.21	51.48	▲50.85	▲45.00
ビチューメン価格(※3)	(USD/bbl)	53.36	50.48	26.16	21.05	▲27.20	▲29.43
為替/米ドル	(円/USD)	102.13	106.23	121.44	121.06	+19.31	+14.83

※1 「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除く。

※2 「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社であるJapex (U.S.) Corp.、JAPEX Montney Ltd.、株式会社ジャペックスガラフの数値を記載。

※3 「ビチューメン」の価格及び売上高は、ロイヤリティ控除後の数値。

16/3月期第3四半期連結会計期間より、海外連結子会社であるJapan Canada Oil Sands Limited は、機能通貨をカナダドルから米ドルに変更。

16/3月期 決算概要【前期比】

単位：百万円	15/3月期 通期実績 (a)	16/3月期 通期実績 (a)	比較増減
売上高	304,911	240,302	▲64,609
売上総利益	70,262	47,279	▲22,983
探鉱費	4,489	6,516	+2,027
販売費	33,625	32,426	▲1,199
営業利益	32,146	8,336	▲23,810
営業外損益	22,692	▲3,684	▲26,376
経常利益	54,839	4,652	▲50,187
特別損益	▲4,465	▲3,143	+1,322
法人税等	17,644	6,388	▲11,256
非支配株主に帰属する 当期純利益又は 当期純損失(▲)	3,161	▲6,970	▲10,131
親会社株主に帰属する 当期純利益	29,567	2,090	▲27,477

「増益要因を +」、「減益要因を ▲」で記載

売上総利益

国内原油天然ガス ▲103億円
海外連結子会社 ▲116億円

探鉱費

国内探鉱費用の減少 +4億円
海外探鉱費用の増加 ▲25億円

営業外損益

持分法投資損益 ▲103億円
借入金の為替換算差額、その他為替差損益
差益 66億円(15/3期) → 差損 88億円(16/3期)
▲154億円

特別損益

減損損失の減少 +9億円

Ⅲ. 2017年3月期 通期業績予想

執行役員 山下 通郎

17/3月期 通期業績予想 【前提条件】

[油価、為替等の前提]

(上段)2015年1月～2016年3月、(下段)2016年1月～2017年3月					通期
1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	

W T I	USD/bbl	前期実績	48.70	57.75	46.50	42.03		48.75
		今期予想	35.00	40.00	40.00	50.00		41.25
原油CIF (J C C)	USD/bbl	前期実績		56.49	62.50	48.91	36.82	51.48
		今期予想		40.00	40.00	50.00	50.00	45.00
為替	円/USD	前期実績		119.74	123.31	120.76	120.09	121.06
		今期予想		115.00	115.00	115.00	115.00	115.00

JACOS Bitumen	USD/bbl	前期実績	22.37	30.64	19.70	13.55		21.05
		今期予想	6.35	11.53	-	-		8.39
JML Gas	CAD/mcf	前期実績	2.37	2.35	2.30	1.57		2.12
		今期予想	1.95	1.87	1.85	1.85		1.88

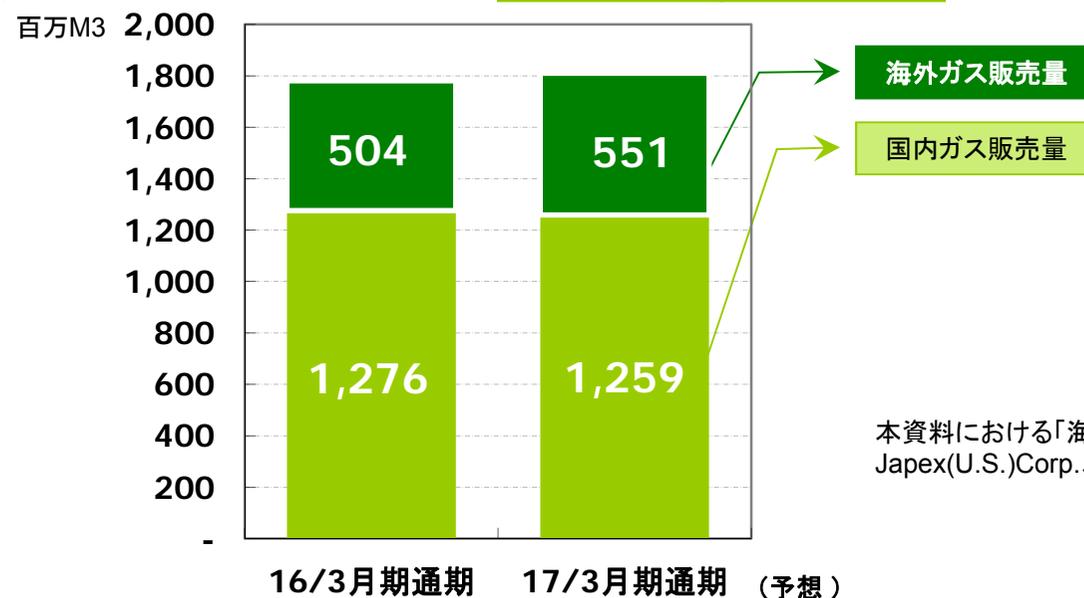
1. “JACOS Bitumen” は JACOS社のビチューメン販売単価（ロイヤルティ控除後）、2016年5月よりDEMOエリアにおける生産操業の一時休止を前提とし、下期販売は見込まず。
2. “JML Gas” は Japex Montney社のガス販売価格（ロイヤルティ控除後）。

17/3月期 天然ガス 販売予想

販売量: 百万M3 売上高: 百万円		16/3月期		17/3月期		比較増減	
		4-9月 2Q累計 (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 2Q累計 (e)	4-3月 通期 (e)	4-9月 2Q累計	4-3月 通期
天然ガス:	販売量	820	1,780	871	1,811	+51	+31
	売上高	33,031	68,469	24,889	54,607	▲8,142	▲13,862

販売量 内訳

国内ガス販売	販売量	579	1,276	570	1,259	▲8	▲17
(うち国産天然ガス)	販売量	(361)	(769)	(341)	(737)	(▲20)	(▲32)
海外ガス販売	販売量	241	504	300	551	+59	+47



本資料における「海外ガス」の販売量は、海外連結子会社である Japex(U.S.)Corp.、JAPEX Montney Ltd.の数値を記載。

17/3月期 原油 販売予想

販売量: 千KL 売上高: 百万円		16/3月期		17/3月期		比較増減	
		4-9月 2Q累計 (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 2Q累計 (e)	4-3月 通期 (e)	4-9月 2Q累計	4-3月 通期
原油:	販売量	1,480	3,233	1,280	2,564	▲200	▲669
	売上高	57,148	102,918	32,233	76,286	▲24,915	▲26,632

[権益原油の内訳]

国産原油 (※1)	販売量	180	340	150	296	▲30	▲44
	売上高	8,427	13,815	4,671	10,288	▲3,756	▲3,527
海外原油 (※2)	販売量	669	1,616	669	1,326	▲0	▲290
	売上高	24,416	48,384	15,866	36,182	▲8,550	▲12,202
ビチューメン (※3)	販売量	143	306	93	94	▲50	▲212
	売上高	2,927	4,894	538	568	▲2,389	▲4,326

[油価と為替の前提]

原油CIF価格	(USD/bbl)	59.21	51.48	40.00	45.00	▲19.21	▲6.48
ビチューメン価格(※3)	(USD/bbl)	26.16	21.05	7.96	8.39	▲18.20	▲12.66
為替/米ドル	(円/USD)	121.44	121.06	115.00	115.00	▲6.44	▲6.06

※1 「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除く。

※2 「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社であるJapex (U.S.) Corp.、JAPEX Montney Ltd.、株式会社ジャベックスグラフの数値を記載。

※3 「ビチューメン」の価格及び売上高は、ロイヤリティー控除後の数値。

16/3月期第3四半期連結会計期間より、海外連結子会社であるJapan Canada Oil Sands Limited は、機能通貨をカナダドルから米ドルに変更。

2016年5月よりDEMOエリアの生産操業を一時休止。

17/3月期 業績予想

単位：百万円	16/3月期 通期実績 (a)	17/3月期 通期予想 (e)	比較増減
売上高	240,302	194,575	▲45,727
売上総利益	47,279	30,547	▲16,732
探鉱費	6,516	1,867	▲4,649
販管費	32,426	28,280	▲4,146
営業利益	8,336	400	▲7,936
営業外損益	▲3,684	614	+4,298
経常利益	4,652	1,014	▲3,638
特別損益	▲3,143	▲69	+3,074
法人税等	6,388	2,510	▲3,878
非支配株主に帰属する 当期純損失(▲)	▲6,970	▲3,550	+3,420
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,090	1,985	▲105

「増益要因を +」、「減益要因を ▲」で記載

売上総利益

国内原油天然ガス	▲86億円
海外連結子会社	▲59億円
託送収入の減少	▲25億円

探鉱費

国内探鉱費用の減少	+10億円
海外探鉱費用の減少	+36億円

販管費

JACOS 輸送費・管理費の削減	+15億円
その他コスト削減、償却費減少等	+10億円

営業外損益

持分法投資損益	▲28億円
借入金の為替換算差額、その他為替差損益	+82億円

特別損益

減損損失の減少	+30億円
---------	-------

油価、為替等の前提及び収益への影響

油価、為替等の前提	原油CIF価格 USD 45.00 /bbl	為替 115.00円 / USD	カナダ産ガス価格 CAD 1.88 /mcf
17/3月期 収益 影響額	USD 1 /bbl の 油価上昇 による 利益増加額は…	1 円/USD の 円安 による 利益増加額は…	CAD 1 /mcf の カナダ産ガス価格上昇 による利益増加額は…
営業利益	490 百万円	260 百万円	1,480 百万円
当期純利益	340 百万円	140 百万円	630 百万円

[油価、為替等の前提]	16/3月期			17/3月期			比較増減 通期
	1H 1Q-2Q (a)	2H 3Q-4Q (a)	通期 (a)	1H 1Q-2Q (e)	2H 3Q-4Q (e)	通期 (e)	
原油CIF価格 (USD/bbl)	59.21	42.89	51.48	40.00	50.00	45.00	▲6.48
為替/米ドル (円/USD)	121.44	120.47	121.06	115.00	115.00	115.00	▲6.06
カナダ産ガス価格 (CAD/mcf)	2.36	1.88	2.12	1.91	1.85	1.88	▲0.24

為替変動の影響に関して、上記に示したものの以外に、外貨建金銭債権債務の為替レート換算差額が発生します。
また、実際の利益は原油価格や為替以外の様々な要因によっても影響されます。

(参考)略語集

● BOE(D)	Barrels of Oil Equivalent (per Day)	石油換算バーレル(日量)
● CCS	Carbon dioxide Capture and Storage	二酸化炭素の回収、貯留
● COP	Conference Of the Parties	気候変動枠組条約締約国会議
● CSR	Corporate Social Responsibility	企業の社会的責任
● E&P	Exploration and Production	石油天然ガスの探鉱・開発・生産
● FID	Final Investment Decision	最終投資意思決定
● GHG	Greenhouse Gas	温室効果ガス
● HE	Hangingstone Expansion	(カナダオイルサンド)ハンギングストーン拡張開発プロジェクト
● HSE	Health, Safety and Environment	労働安全衛生・環境
● IOR (EOR)	Improved (Enhanced) Oil Recovery	増進回収法
● JCC	Japan Crude Cocktail	日本原油輸入価格平均
● JOGMEC	Japan Oil, Gas and Minerals National Corporation	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構
● LNG	Liquefied Natural Gas	液化天然ガス
● MH	Methane Hydrate	メタンハイドレート
● P/L	Pipeline	パイプライン
● PNWL	Pacific North West LNG	カナダシェールガス・LNGプロジェクト
● ROE	Return on Equity	自己資本利益率
● RRR	Reserve Replacement Ratio	埋蔵量置換率
● SODECO	Sakhalin Oil & Gas Development Co., Ltd.	サハリン石油ガス開発株式会社
● TSB	Terang, Sirasun, Batur	テランガス田、シラスンガス田、バトゥールガス田
● WTI	West Texas Intermediate	ウェスト・テキサス・インターミディエイト原油